

# 小城市 少年・少女スポーツ活動の指針

小城市教育員会

小城市社会教育委員の会議

平成27年3月



## 1. 趣旨

子供は、心や体の成長過程にいます。その子供たちにとってのスポーツとはどのようなものなのでしょう。それは、体力を向上させるばかりではなく、公正であること、規律を守る心を培う等、健全な心身の形成、豊かな人間性を育てていくものです。

小城市においても、少年・少女スポーツクラブが 50 クラブ以上存在し、スポーツに親しむ習慣を身につけ、体力の向上を図るなど活発に活動が行われています。

しかしその一方では、スポーツ活動に熱心すぎるあまりに、子供たちの本来あるべき「さまざまな学びの場において育まれる健全な成長」、「学校は勉強するところであるという姿勢」に影響をもたらしている現状もあるようです。

子供たちはスポーツ活動を一生懸命行っていますが、練習がない日には「今日は練習がない」と喜んでいる一面も見え隠れしています。

子供たちが将来、スポーツ活動で培った優秀な技能をより一層活かすためにも、基礎学力をしっかりと身につけておくことは大切です。

また、これからの時代は、知識や情報、技術が社会のあらゆる領域で重要性を増す「知識基盤社会」であり、生き抜く力や人間力を身につけることが必要です。そのためにも、子供たちが本来あるべき姿勢や、子供たちに密接にかかわるスポーツの指導者・保護者等が指導上配慮すべき基本的事項について、社会教育委員の会議で話し合ってきました。

その成果を、ここに「小城市少年・少女スポーツ活動の指針」として策定しました。

スポーツクラブ等の関係者の皆様におかれましては、本指針の趣旨をご理解の上、指針に沿った活動が推進され、子供たちの心身の健全な育成が図られることを期待します。

## 2. スポーツ活動における課題・問題点

本指針を策定するにあたり、少年・少女スポーツ活動の指導者及び保護者に対してアンケートを実施し、どのような課題や問題があるかを整理してみました。

### ◆長時間にわたる練習・多すぎる試合

長時間にわたる練習は、学習や健康への影響が懸念されます。

また、大会や交流試合が、土日に多数行われており、家族で過ごす時間が確保できていない状況が見受けられます。

——アンケート調査等より——

- ・ 成長の過程にある子供の練習時間はどれくらいが良いのでしょうか。
- ・ 土・日にも試合等が入る、また、ほぼ毎日練習というスポーツクラブもあり、家族と過ごす時間が少ない。
- ・ 練習時間で3時間以上というケースもあり、生活のリズムに影響が出ている可能性がある。宿題や翌日の授業に影響が出ている。
- ・ スポーツ活動以外の社会的経験に影響がある。

#### ◆安全面で不安な活動状況

練習中や試合への移手段など、少し不安な状況があります。

——アンケート調査等より——

- ・ 遠征時の移手段が自転車の場合もあり、スポーツ時のケガばかりでなく交通事故なども心配する。
- ・ 指導者が不在の時があり、他の大人が付きそうでもなく子供たちだけで練習しているケースがある。
- ・ 子供たちの体力に合った練習方法ではないと感じている保護者がいる。

#### ◆子供たちの多忙な生活実態

子供たちは、スポーツ活動だけでなく、他にもいろいろな活動をしています。

——アンケート調査等より——

- ・ 毎日きちんと食事をとれていない子供が約2%存在している。
- ・ いくつもの習い事、また、スポーツのかけもちをしている子供がおり、多忙な毎日を過ごしている。

#### ◆家庭、学校、地域との関係

指導者の思い、保護者の思い、学校での子供たちの状況等を、それぞれが十分に理解しあえていない面がみられます。

——アンケート調査等より——

- ・ 習い事やスポーツ活動の練習、試合などが原因で地域の行事や町民運動会等に参加できていない子供がいる。
- ・ 子供の送り迎えや当番等、保護者の出番が以前に比べ多くなっており、ストレスを感じる親もいる。
- ・ 試合に出場できる子と出場できない子の問題など、指導者と保護者間、保護者同士でわかりあえていないところもある。
- ・ 大人の言葉づかいが子供に影響を与えている。

### 3. スポーツ活動の指針

課題解決に向けた活動指針として、次のとおり5か条にまとめました。

## 小城市 少年・少女スポーツ活動の指針 5か条

### ～指導者も 親も地域も学校も～

- 一、 生活態度を養う  
スポーツはルールを守り、勝っても負けても、心と行動のフェアプレーが大切です。指導者・保護者をはじめとする地域の大人は、日頃のスポーツ活動や日常生活における言葉づかいや行動について、子供に十分に配慮するように心がけましょう。
  
- 一、 健康状態への気配り  
「早寝・早起き・朝ごはん」を基本とし、練習前後の体調や熱中症への対応など子供の心身及び健康状態に気を配るように心がけましょう。
  
- 一、 生活のバランスと指導内容のあり方  
運動生理学に基づき、発達年齢に応じた指導内容や練習時間に努め、子供の生活バランスが保たれるよう、適切な活動計画を取り入れるように心がけましょう。  
(第3日曜日は、「家庭の日」です。活動を休止し、完全休養を取りましょう。)
  
- 一、 安心・安全な環境づくりと地域との連携  
子供たちがより安心・安全な環境でスポーツ活動ができるためにも、家庭・学校・スポーツの場面で連携し、情報交換、情報の共有ができるよう心がけましょう。また、地域社会を構成する一員として、できる限り運動会などの地域行事の参加にも努めましょう。
  
- 一、 関係者同士の信頼関係構築  
スポーツ活動は、関係者同士の良好な信頼関係により、よりスムーズで活発となります。指導者と保護者の間または保護者間相互においては、常にコミュニケーションをとり信頼関係を築きましょう。

～この指針を参考に、今まで以上に関係者相互の信頼関係や技術力が向上し、子供たちが安心・安全に、のびのびと活動できることを願っています～